



おかむら
岡村

たけし
武



しせい
至誠会

津市労働会館の長期間の無償使用は適正か

問 津市労働会館は、公の施設であり、市民の持ち物であるが、新たな指定管理者である三重中勢勤労者サービスセンターは、前業市長が理事長をしている団体であり、また、同会館が設置された昭和60年から約37年間もの間、同会館に入居し、無償で独占使用している団体もある。市長は、同会館に入居している団体から選挙のときに推薦を受けていると思うが、どうか。

未来に向けてどうするかしっかりと考える

答 連合三重津地域協議会から推薦を受けているが、津市労働会館については、昭和60年の設置当時に、行政財産としての整理がなされ、勤労者福祉の増進、向上に資する団体に使用許可をし、現在に至っているものであり、以前から行われていることと、選挙の際、同会館に入居している団体の一つから推薦を受けたことを結び付けて質問されても、市長としては答えようがない。

津市労働会館は、市民の財産であることから、同会館がどうあるべきであり、未来に向けてどうするかということは、議員の発言をしっかりと受け止め、考えていく。

●その他の質疑・質問●

- 議案第6号津市職員定数条例の一部の改正について
 - 時間外勤務の現状から考えると職員数を増やすべき
- 議案第8号津市青山高原保健休養地管理基金条例の廃止について
- 施政方針について
- 教育方針について
- 津市公正公平な市政の確保に関する条例について



▲長期間にわたり無償での独占使用が続く津市労働会館



はせがわ
長谷川

うえる
植



みらい
未来開拓

河芸町島崎町線の地域への効果は

問 三重大学前の国道23号の渋滞により、毎朝10分から20分の貴重な時間が奪われている。「河芸町島崎町線」「夢の架け橋」の実現は、渋滞緩和に効果があり、そして、水産業の活性化「海の駅」にもつなげたいと考えているが、津市の水産業の現状と取り組みは。また、地域に波及される効果はどのようなものがあるか。

地元産物のPRや販路拡大に努める

答 市内2漁港の水揚げ量は、漁業者数の減少もあり年々減少している。特に特産品であるコウナゴは禁漁が続く、アサリも不漁が続いている。一方で種苗放流事業の効果でガザミやハマグリ等の漁獲量は増加傾向にある。

津市としてもイベントやホームページを活用して、地元産物のPRや販路拡大に努めていく。

河芸町島崎町線の整備により、国道23号の交通渋滞の解消、三重大学医学部附属病院へのアクセス強化、災害時の代替道路の確保、さらに、周辺との交流が活発化することで、地域の産業振興などの効果も期待されるものと考えている。

●その他の質疑・質問●

- 「中核市」について
 - 移行するための条件およびメリット・デメリットは
 - 全国的な移行状況は
 - 移行は積極的に推進すべき
- 自主財源の見通しについて
 - 固定資産税の徴収率は
 - 所有者不明の不動産の件数は
 - 空き家を有効活用するために
- 高規格救急自動車について
など



▲整備が進む河芸町島崎町線